

経歴書

瀬古利彦（せこ としひこ）

1956年 7月15日、三重県桑名市生まれ。

高校時代（四日市工業高）にインターハイで2年連続
2冠（800m、1500m）。

早稲田大学入学後、中村 清（当時競走部監督）との
出会いを経て、マラソンランナーに。

1980年エスビー食品（株）入社。

マラソン成績は福岡国際マラソン4勝をはじめ、
東京、びわ湖、ボストン(2勝)、ロンドン、シカゴ等、
世界の主要な大会を制し、日本のマラソンブーム
を創りあげた。



マラソン15戦10勝の偉業を、かつての名ランナーであるフランク・ショーター(ミュンヘン五輪覇者)
「歴代で偉大なるランナーをあげると1にアベベ・ビキラ(ローマ、東京五輪覇者)、
2に瀬古利彦、私は3番目であろう。」と言わしめた。

1984年ロスアンジェルス、1988年ソウルオリンピックのマラソン日本代表になる。

1988年現役を引退後、同社陸上競技部監督(1989～2005)を経て
現在、同社スポーツ推進局局長として陸上競技部を統括する傍ら、スポーツイベントゲストや
マラソン・駅伝の解説、講演等の活動を通して、マラソン、陸上競技の普及に努めている。

指導成績としては、2001年別府大分マラソン西田隆維、2002年びわ湖毎日マラソン武井隆次
2003年福岡国際マラソン国近友昭らを優勝させ、国近は2004年のアテネオリンピック
日本代表となる。また、1990年～93年に早稲田大学競走部コーチも兼任、93年には
箱根駅伝で同校を優勝に導いた。

本年2月に「すべてのマラソンランナーに伝えたいこと」（実業之日本社）を上梓。
これからジョギングをはじめようとする初心者から、オリンピックを目指す長距離・マラソン
ランナーまで「すべてのランナー」に向けての瀬古利彦の想いが詰められている。

2007年12月より 東京都 教育委員

2011年 4月より (公財)日本陸上競技連盟 理事

2011年 4月より (特非)日本オリンピックズ協会 理事

以 上